

わが国の青少年性行動の評価法についての試み

宮原 忍 (東京大学医学部)

最近のわが国の青少年の性行動は著しく活発化しているといわれる。しかし、これを明確に数量化して評価することは、さほど容易なことではない。

日本性教育協会は、総理府青少年対策本部の委嘱を受け、1974年、1981年の2回、全国の高校生、大学生を対象に、性行動調査を行い、“青少年の性行動”、“青少年の性行動(第2回)”として発表した。この性行動調査は、キンゼイにならって、累積経験率のかたちにまとめられているが、ある行動の年齢別頻度を表現するには様々な方法が可能であり、累積経験率が必ずしもそれらのうちで最善であるとは言えない。特に累積経験率では、ある年齢の率はそれより若い年齢の率に影響されるので、年齢間の比較が困難である。

そこでこのデータを用いて、生命表を応用して初経験確率を計算してみた。例として1981年の女性のデート経験について説明する。

まず、出発点を10歳にとり、1,000人のコホートを仮定する。10歳における累積経験率は0.8パーセントなので、10歳の経験者数を8人とする。従って10歳の初経験率は $8 \div 1,000$ で0.008である。11歳の始めにおける未経験者は $1,000 - 8 = 992$ 人である。11歳における累積経験率は1.1パーセントであるから、3人が初めてデートを経験したことになる。従って11歳の初経験率は $3 \div 992 = 0.003$ である。

各年齢の累積経験率の差を取るとその年齢における初経験者の全体に対する割合がでるが、初経験者は未経験者の中からだけ出るので、経験者数を、未経験者数で除した数である初経験率の方が意味がある。未経験者数は、年齢の上昇につれて、減少するので、当然、初経験率は全体を母数とした初経験割合より、大きくなる。初経験割合で見ると、18歳の男性のデートは、1974年の7.8パーセントから1981年の9.7パーセントに上昇したのに対し、初経験率では0.182から0.232へ上昇したことになり、18歳の女性のデートは、

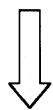
1974年から1981年までの7年間に、7.9パーセントから10.5パーセントへ上昇したにすぎないが、初経験率では0.190から0.277へ大幅な増加があったことがわかる。すなわち、男性では7年間に初経験割合で1.2倍、初経験率で1.3倍、女性では初経験割合で1.3倍、初経験率で1.5倍の増加である。

男性のキス経験では、1974年では18歳で初経験割合で8.7パーセントであったのが1981年には9.8パーセントに上昇したが、初経験率では0.120から0.140に、女性のキス経験では、18歳の初経験割合では、1974年の6.1パーセントから1984年の9.0パーセントへ増加し、初経験率では0.076から0.123への増加を見たこととなる。

男性のベッティング経験は、1974年から1981年の7年間に、初経験割合で5.2パーセントから9.2パーセントへ、初経験率で0.061から0.111へ、女性のベッティング経験は、初経験割合で3.1パーセントから4.2パーセントへ、初経験率で0.034から0.050へ増加したこととなる。

性交経験を初経験率でみると、男性に比して女性で年齢の特徴が顕著で、1981年の女性の性交経験を、初経験率でみると、13歳の0.001から徐々に上昇を始め、14歳で0.005、15歳で0.017となり、16歳の0.030まで上昇する。16, 17, 18歳ではほぼ横ばいで、19歳から再び上昇、20歳で0.131となる。これをみると、おおよそ中学、高校、大学に相当する山が区別でき、とくに女子高校生の初経験確率の上昇は、否定できないとはいえ、主たる変化は、大学(短大をふくむ)に相当する年齢におこっているとみることができる。

以上のように、初経験率は従来の累積経験率より各年齢の性行動の評価が明らかになりやすく、これによってみれば、現在の青少年の性行動が教育システムと密接にかかわっており、これらのデータは、大学、短大における性教育、ないし指導を充実する必要を示唆するものと考えることが出来よう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



最近のわが国の青少年の性行動は著しく活発化しているといわれる。しかし、これを明確に数量化して評価することは、さほど容易なことではない。

日本性教育協会は、総理府青少年対策本部の委嘱を受け、1974 年、1981 年の 2 回、全国の高校生、大学生を対象に、性行動調査を行い、“ 青少年の性行動 ”、“ 青少年の性行動 (第 2 回) ” として発表した。この性行動調査は、キンゼイにならって、累積経験率のかたちにまとめられているが、ある行動の年齢別頻度を表現するには様々な方法が可能であり、累積経験率が必ずしもそれらのうちで最善であるとは言えない。特に累積経験率では、ある年齢の率はそれよりわかい年齢の率に影響されるので、年齢間の比較が困難である。

そこでこのデータを用いて、生命表を応用して初経験確率を計算してみた。例として 1981 年の女性のデート経験について説明する。